

◆文化財を紐解いて見えてくること

古より学び、語り継ぐ

先人たちが築いた歴史を

次の世代へつなぐことの大切さ

町の歴史を語る上で欠かすことのできない「文化財」。古くから先人たちが守り遺した貴重な文化財は、私たちに多くのことを教えてくれます。この大切な財産を次世代に引き継いでいくことは、私たちの使命ではないでしょうか。

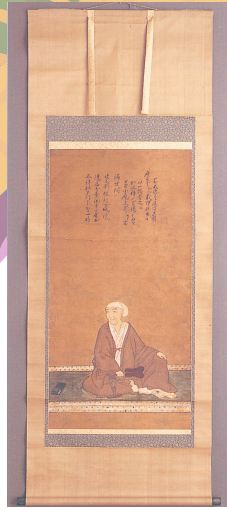


県指定有形文化財



木造馬頭観音坐像
(海蔵寺)

高さ62.4cmのこの像は、体内銘文から室町時代の嘉吉元年(1441)に造られたことがわかっている。3つの顔と6本の手からなり、髻の上に馬頭を置き、目は非常に鋭く、正面は三眼で、ひとみの縁が赤で隈取られている。その荘厳な姿は毎年2月18日の御開帳の日にはしか見ることができない。



紙本著色黒田如水像
(龍昌寺)

龍昌寺は、黒田長政の重臣で黒田二十五騎の一人井上周防が再興した。この絵は井上周防が主君黒田如水を追慕し同寺に寄進したものである。白い頭巾をかぶり、栗色の十徳を着た黒田如水の隠棲の姿が着色で描かれている。縦97.5cm、横48.5cmの掛幅装。



紙本著色井上周防像
(龍昌寺)

井上周防は、幼名を弥太郎といい、後に之房、通称九郎右衛門で、筑前入国後に周防と号した。井上周防は龍昌寺を再興し、本堂の裏には井上周防之房の墓所がある。この絵は、白い頭巾をかぶり、黒い十徳を着た周防の晩年の姿が描かれている。縦94.5cm、横36.3cmの掛幅装。



銅製毘沙門天立像
(高倉神社)

室町時代の延徳3年(1491)に須藤駿河守行重の命により、筑前芦屋の鑄物師、大工大江貞盛により造られた。像は邪鬼の上に立ち、左手に宝塔をかかげ、右手に三叉を持っている。邪鬼を含み高さは227.5cm。筑前芦屋は芦屋釜で全国にその名が知られているが、この像は芦屋鑄造関係の資料として貴重なものである。

県指定天然記念物



高倉宮の綾杉

社伝によると、この綾杉は神功皇后が自らお手植えされたといわれている。その際、苗木を逆さまに植えられたので「逆杉」とも呼ばれ神木としてあがめられている。永禄2年(1559)に大友宗麟の兵火に遭ったが、焼け残った部分から再び芽を出し現在のような大木になったと思われる。樹高17m、胸高周囲5.7m。



高倉の樟

高倉神社境内にある6本の樟のうち、5本が県の天然記念物に指定されている。いずれも樹齢300年以上の老木であるが、樹勢は旺盛で境内は樟の森といった趣である。

町指定文化財

【彫刻】

- 木造薬師如来坐像(手野・薬師堂)
- 木造阿弥陀如来立像(安楽院)
- 木造胎蔵界大日如来坐像(隆守院)
- 木造二天王立像(手野・薬師堂)
- 木造十二神将立像(手野・薬師堂)
- 木造阿弥陀如来坐像(東黒山・阿弥陀堂)

【絵画】

- 絹本著色涅槃図(安楽院)
- 紙本著色釈迦八相涅槃図(龍昌寺)
- 紙本著色大暁禅師像図(海蔵寺)

【史跡】

- 井上周防の墓(龍昌寺)
- 岡城址(隆守院)
- 塩屋古墳(原)
- 九州鉄道・海老津赤レンガアーチ(海老津)

【天然記念物】

- 真福寺の蘇鉄(真福寺)
- 大原神社の銀杏(大原神社)
- シヤシヤンポ(遠賀中間医師会おかがき病院裏)

【工芸】

- 罌口(安楽院)

【考古資料】

- 鬼面文鬼瓦片(岡垣町教育委員会)

【古文書】

- 竹井文書(岡垣町教育委員会)

【無形文化財】

- 東黒山の祇園山笠(東黒山区)
- 吉木思案橋踊り(吉木芸能保存会)